

要約 HBC200517 マルコ 7 章 31 節~37 節「聞こえるようにし、話せるようになった方」

1. イエスの行程 7:31 ツロの地方⇒シドン⇒デカポリス地方⇒ガリラヤ湖

異邦人の地を巡り歩いたのは、異邦人の地にも福音を伝えるためでした。3章8節との関連も考えられます。イエス様のところに、ツロ、シドンの辺りからも非常に大勢の人々がやって来たとあります。イエス様は、自分を求めて来た人を忘れることなく、ご自身から尋ねていかれたのです。

さらりと書いてあるだけですが、ツロとシドンに注目します。ヨシュア記でイスラエルが獲得すべき領域の北限として神様から示されました。アシェル族の領域が「大シドンに至る」とされています（ヨシ19:28）。しかし異邦人が住むところとなっていました。預言者エリヤがアハブから、神様の指示によって身を隠したのはシドンの属領ツアレファテ（サレプタ）でした。ツロは「シドンの娘」と言われていました。イエス様は、偶像の町であったけれども歴史的関わりとエリヤが訪れていたことから、神様の御心が及ぶこの地に福音を伝えたのです。偶像の町として言われていますが、もしそこでイエス様の神の力が現わされたら、悔い改めるだろうとマタイで言っています。（マタイ11:20~23）。私たちの救いも、決して偶然ではなく、歴史の中の必然、として神様の御心であるのです。

2. イエス様は耳が聞こえず、口がきけない人に触れられました。（ガリラヤ湖）

イエスが治癒の為にした行動は不思議で、癒しの言葉はすべて奇跡的なもののようにです。

イエスのこの奇妙な行動は、耳が聞こえず、口がきけない人に対して、彼に理解させるためでした。

天を仰いだのは、癒しの手力が超越的源である、天の神から来ていることを示したのでしょう。

イエス様の「溜息」は、男の苦しみに悲しむうめきであったと考えられます。アラム語の「エパタ」はここだけに使われています。日常語で言われたことで、イエス様の想いを表しています。

「触れた。触る。」は他の意味にも訳されています。それは（火を）ともす、ということです。

さわることで暖かさが伝わり、「手当」という緩和的癒しの方法につながります。イエス様の「手当」は根本的な癒しです。完全な癒しと同時にイエス様の暖かさが伝わるのです。

3. イエス様のイザヤの終末預言を成就しました。

（32節）口がきけない「モギラロン（モギラロス）」は、新約聖書で一回だけで、70人訳ギリシャ語聖書中で2回だけです。こことイザヤ35:6です。イザヤ書34-35章は神の審判と約束が書かれています。ここは終末の預言が書かれていて黙示録とのつながりが分かります。そのイザヤとマルコの福音書のつながりで、イザヤ35章の預言、神の救いの目的の成就をマルコが示していることだと分かります。まさに預言の成就を示しているのです。

結語 「この方のなされたことはすばらしい。」は二つの話がかかっているとみられています。

一連の奇跡物語群全体の結論であったと考えられています。二人とも、イエスに従ったとは書かれていませんが、イエス様が彼等の必要を満たし、イエス様ご自身の栄光を現わしたという事は確かなことです。同時にイエス様はこの心の叫び願いを知ってくださる方です。「聞こえるようにし、話せるように」して下さったように、重荷を主に委ねなさいと言って下さる主です。その重荷を受け取りにあなたの所へ行ってくださるイエス様です。イエス様の人々に及ぶ神の力が明らかに証しされました。それが預言の成就でもありました。

本日の箇所、終わりの時の始まりであるイエス様のみわざが明らかに示されました。そしてイエス・キリストは贖いの完成の為に十字架へ向かって行きました。私たちを救うためです。